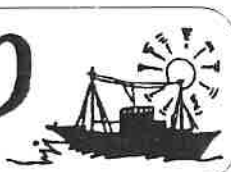


# 福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース



発行 (財)第五福竜丸平和協会  
連絡所 〒136-0081  
東京都江東区夢の島3-2  
都立第五福竜丸展示館内  
電話 03-3521-8494  
URL http://d5f.org

## ビキニ事件の背景——その今日の意味

森 一久

一九五四年三月一六日の読売新聞の「第五福竜丸、被災」のスクープ記事は、今でも私の脳裏に焼きついている。当時科学雑誌『自然』の記者だった私は、その前年一九五三年二月八日アイゼンハワー米大統領が、突然国連総会で、原子力平和利用の「解禁」声明を出したことの真意を計りかねていた。服部学氏らと語り、全国の理学関係の若手に檄をとばし、被爆国日本としては、このアメリカの勧めにのって、平和利用に着手すべきかどうか、慎重に考えねばならない。それには先ず原子力の現状を一緒に勉強しよう、と、「原子力談話会」の結成に取りかかっていた。実は、この二つの出来事——第五福竜丸事件とアイゼンハワー声明——は、今にして思えば、底流において、関連があったのである。

一九五三年二月 ア米大統領、国連総会でアトム・フォ・ピース宣言  
▼一九五四年三月一日 米、強化乾式水爆実験、八〇海里地点で福竜丸被災  
つまり、この一年半の間のアメリカの原子力政策における一連の異常な出来事は、戦後米国の絶対優位で始まった核兵器競争での、初めての「挫折」の深刻さを示している。ソ連が僅か八回目の核実験で、(四〇回以上の)米國を追い越したという実態は、ただごとではなかったであろう。

「地下にある指揮棟のすごい揺れ、こんなことは今までに経験したことがない。放射線計測器の針が振り切れ、あわてて建物に逃げ込み、救出を待った」と当時の体験を述べている。  
情報の混乱とマスコミの良心  
福竜丸の被爆が三月一日、二週間も経て判明してからの、情報・対策の混乱はしばらく続いた。「マグロ大丈夫か」の騒ぎもさることながら、特に、被災された二人の症状をめぐっての日米の格差、報道の混乱ははげしかった。  
四月になってやっと日米両政府の合意が出来、中旬以降「原水爆症調査研究協議会」(東大美甘院長、国立第一栗山副院長、熊取博士ら)を通じてすべて発表することになったが、第一回の発表については日本の新聞でさえ、「快方に向かう」と報道する始末。業を煮やした協議会は、すぐに第二回の発表を行って、四月中旬の重症の四人の血液像の数値などを発表し、この二週間改善の兆しが見られぬ深刻な状況にある事実を示した。しかし、米アリンソンの「症状はかるい」という声明が出されるなど、米側には事態を矮小化するかの意図も見えてきた。  
筆者は、いろんなルートを通じて、(2めん下につづく)

### 狂気の産物 「ビキニ水爆」

▼一九五二年一月——米國初の水爆実験(原爆を加圧液化三重水素で包んだ湿式)  
▼一九五三年八月——ソ連初の水爆実験(重水素化リチウム六で包んだ「乾式」)

「新型」のものに更に大量のウランを巻いた、空前絶後の「汚い」設計の核兵器だったという事実も、また実験計画の杜撰さも、常軌を逸したものであった。著名な核物理学者でこの水爆の組み立てと実験にも直接携わったB・オキーフ博士は、その著書『核の人質たち』の中で、

## 風雨のなか一四〇人参加 お花見平和のつどい

四月五日、第五福竜丸から平和を発信する連絡会がよびかけた「お花見平和のつどい」が開かれました。今年で三回目となる「つどい」は、暴風雨を思わせる天候でしたが、開会予定の一時半には一四〇人余の参加者が、福竜丸の船首の下に集まりました。挨拶に立った東京地婦連の田中里子さんは、この悪天候のなか千人、万人にも匹敵するような方々が集まりくださいました。第五福竜丸のエンジンを夢の島へ、と集まった私たちはエンジンの展示



に続き、記念の桜を植えました。二〇〇〇年一月にエンジンのお帰りの集いをおこない、そして二〇〇一年に初めてのお花見平和のつどいを開きました。去年は葉桜になってしまいましたけれど、今年はまださかんな「あらし」になるとは思いませんでした。イラクで戦争が始まったことを考える二〇〇三年の四月五日になったのではないかと、平和こそ、地球で一番尊いものだということをみんなに伝えていくために力を合わせましょう。みなさんで声をだしま



平和へのメッセージが寄せられた

しょう。「戦争やめて花見行こう」とよびかけました。つづいて連絡会を構成する各団体から平和のとりくみへの報告が行われました。第五福竜丸平和協会からは藤田秀雄副会長が、展示館の特徴、ビキニ被災五〇周年のとりくみやエンジンの状態について報告。東京都生協連、主婦連、都消費者団体連合会、東京地婦連、東友会、東京原水協などから報告があり、青年団からもメッセージが寄せられました。  
昼食休憩には、若者によるミニコンサートがおこなわれ、午後からは参加者からのピーストーク、女性の戦争体験を聞くコーナーでは、被爆者の米田チヨノさんと東京空襲の被災者の二瓶治子さんが体験を切々と語りました。  
つどいは最後に、主婦連の平和のおしゃもじに寄せられたメッセージと参加者が折った折鶴二七〇羽が紹介されました。最後に、都消費者団体連合会の寺田かつ子さんが、戦争を体験した人も若い人も一緒に世界は平和でなくてはと確認した意義ある催しでした、と挨拶し午後三時すぎに終わりました。

### 平和協会が理事会

評議会を開く

第五福竜丸平和協会は、三月一日に評議員会を、二四日に理事会を開催し、二〇〇三年度の事業計画、予算、理事、評議員の選出について審議し決定しました。  
事業計画では、二〇〇三年度の開館日数は三〇九日。おもなとりくみとして、五〇周年記念事業の一環としての基本展示のリニューアル、若い世代への「今こそ第五福竜丸と対話しよう」との見学の促進、被災船に関する資料やビキニ事件の回想手記の募集、特別展の開催、記念出版、五〇周年事業推進のための募金のとりくみなどをおこないます。  
また協会の設立三〇周年の記念レセプション、五〇周年記念プロジェクトのオープニングを来年二月一四日におこなうことなどを確認しました。

平和協会の新たな理事に就任されたのは関口和さん、評議員に川口重雄さんが就かれました。また長年理事を務められた服部学さんが退任されました。

### 久保山さんの死去に さいし綴られた 作文の紹介

この作文は、青森市の堤小学校六年生の赤平玲子さんが久保山愛吉さんの亡くなられた直後に書き、一〇月三日は長島校で行われた市連合PTAのお話会に発表して一位になった作品です。去る三月一日に行われた平和協会のピキニ事件記念のつどいで、大石又七さんの証言についての新聞報道記事を読まれた青森市在住の日本人から送られてきました。ここに紹介します(一部略)。

#### 久保山さんの死

六年 赤平玲子  
久保山さんが亡くなったというラジオ放送を聞いて、私はがっかりしました。一時重態を伝えられながらも国立東京病院のえらい先生方のつきまじりのかんごで、しいにより方向へむいていくと聞いていたものから、ひよとすると、よくなるのではないかと思っていたのでした。

台所にいたおかあさんに、久保山さんがなくなっただけを知らせ

ると、

「やっぱりだめだったのね。」とつぶやくようにいわれました。

「おかあさん、福りゅう丸で灰をかぶったほかの人たちも、みんなそうなるでしょうか。」

「さあ、どうかかわからないけど、久保山さんがげんぱくしようでなくなったとすれば、あとの人もあやしいね。」

「いやだわ、おかあさん、なんておそろしい灰なんでしょう。」

「そうね。むかし、花さかじいさんは、枯れ木に灰をまいて花をさかせたのに、今は灰をまいて人を殺すのだからね。」

そこへ妹の育子が来て

「花さかじいさん絵本があるわ、とてもきれいわ。」などと

言っています。  
なるほど灰をまいて人を殺したりしないで、灰をまいて花をさかせる方法がないものだろうか、と私はそんなことを考えました。

「広島」の映画で、げんぱくをうけて入院していた人たちが、地面にたねをまいて芽が出るかどうかためしたところ、その芽がでた大よろこびによるこんだ場面がある。  
(3めんにつづく)

(1めんからつづく)

「真相を報道して」と米国の知人に訴えたが、両政府が対立の状況にあった当時、あまり反応はなかった。ただ一人即刻返事が来たのは、サイエンティフィック・アメリカン誌の発行者ジェラード・ビール氏からであった。同誌は百年の伝統を持つ世界最大の科学雑誌、その正確・深遠で分かりやすい解説では抜きんでており、今では日本はじめ五カ国語で発行されている。ビール氏は「我が誌は常に真実にもとづいて記事を載せてきた。本当のことを至急、電信で送ってほしい」と。当時の経済状況、「その費用が」と電話すると、流石に察しが良く、驚く速さで、同社あての「無料送信カード」が届いた。それを使っての、私の(拙い英語の)記事は、ちゃんとブラッシュされた上、同誌の「最新ニュース」欄の一隅に掲載されたものである。ビール氏の高潔なジャーナリスト精神は、新米の記者の私には大きな刺激となった。また二〇年後同誌の日本版が創刊され、その初代編集長に東京12チャンネルで一緒に働いた長友餌取章男氏が就任したのも、深い

縁を痛感する。

イラク戦争を前にして

冒頭に、ピキニ事件は米国が「あまりに乱暴で正気に欠けた」と分析した。その後同国は、(似たようなコンテュクストの中で)続いてベトナム戦争と、そして今回のイラクに対する先制攻撃に突入している。

ピキニ事件を風化させないことの意味は、このように極めて深い。ヒロシマの証人でもある筆者としても、五〇年を機に当協会の役割を再確認したいと思う。  
(日本原子力産業会議副会長/第五福竜丸平和協会評議員)

#### 被災漁船にかんする資料、 事件当時の回想手記を募集

平和協会は、ピキニ水爆実験五〇年にむけて、被災船に関する資料・情報や当時の市民の体験や回想の手記を募集します。手記は二千字以内で展示館までお寄せください。



#### (2めんからつづく)

りました。  
しかし、こんどの水素ばくだんは、あの時の原子ばくだんより何倍も強いというのですから、こんど地面に落ちたら、いったいどんなことになるでしょうか。

いちど灰をかぶったら最後、しだいに体の内ぞうがおかされてついに死んで行く。こんなおそろしい灰をばらまく人殺しの実験をどうしてやめないのでしょうか。世界の人は、どうしてこんなむごたらしい実験をやめさせないのでしょうか。

ソ連がやるからアメリカもやるのだということですが、ソ連もアメリカも死の灰をかぶらず、なにもしない日本が死の灰をかぶるという、こんなバカげたことはないと思います。日本は死の谷間だと書いたものを見たことがありません。それはこのことではないでしょうか。

私が作文を書いていると妹が「おねえちゃん。はい。」といて新聞を持って来ました。見ると久保山さんのおそう式の写真がでていました。ワンピースを着たお

なお手を合わせてごしようこう

しているところでした。向かって左から、やす子ちゃん、みや子ちゃん、さよこちゃんです。女の子よくだいばかりで私の家になにしているなと思いました。このいじらしいきょうだいたちは、何と云っておがんでいることでしょうか。

「どうぞ一日も早く、げんしばくだんを作ることやめるように、おとうさんを苦しめた灰が、二度と地球上にふらないように、なくなられたおとうさんも、生きてる私たちも、みんなみんな安らかにすごしていけるようにお願いします。」

と云っているようでした。  
写真の円内は生きていた時の久保山さんのお顔です。苦勞をきざんだまなじりに、するどく光る目で大きな口を一文字に結んで「だるまたいし」のように見えます。久保山さんは、

「わたしは、何もいわない。しかし、死の灰だけはやめさせて、日本を不幸な谷間から救わねばならない。」  
と云っているように思われてなりません。(後略)

#### リトアニア・チェルノブ イリ運動の代表が来館

三月二日、チェルノブイリ原発の被害者のサポートをつづけるリトアニア・チェルノブイリ運動の代表が福竜丸展示館をおとずれました。

一行は、日本のエストニア・チェルノブイリ交流基金の招きで来日した同運動議長のゲディミナス・ジャンチャウスカスさん、コーデイネーターのケスチウス・カズラウスカスさんら三名と同交流基金から吉田嘉清氏ら四名が来



館内を見学する代表

館しました。

ジャンチャウスカスさんは、放射能汚染除去作業に事故の一年後に参加し、井戸の放射能汚染除去や工場敷地内の浄化、破壊地域の写真撮影などに二ヶ月間従事しました。一九九〇年にリトアニア・チェルノブイリ運動の創設に参加し、被爆者たちが抱える問題を内外に訴えてきました。

カズラウスカスさんは、チェルノブイリ通信を発行し、被害者と政府の間の取次ぎのサポートや情報交流、書籍やブックレットの発行などで、被害の実情を広めています。会には二千人のメンバーがおり、三千人の被害者と連絡をとりあっているとのこと。

今回の来日は、日本の被爆者との交流をすすめることと被害者が「発病するかもしれない」と言う心理的ストレス、それによる体調不良、おびえ、無力感などへのケア、社会復帰などについての知見を深めることを目的にしているとのことでした。

一行は、川崎昭一郎平和協会会長の案内で展示館を見学した後、懇談しました。